

## 【保健領域授業研究会】

参加者：米子市9名



### ○協議の柱

児童と健康課題を結び付け、主体的に課題解決に取り組める手立てを行うことができていたか。

保健の見方・考え方（個人及社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること）に則した内容になっていたか。

### ○成果

- ・架空のAさんの生活を振り返り、自分の生活を顧みることで、導入場面で関心を高めることができた。
- ・生活習慣病予防のための食生活の改善を促す場面で、おやつ（ポテトチップス、カップ麺、アイス、コーラ、レモンティー）の脂質、塩分、糖分を実物で示し、児童が食生活を顧みるきっかけとなっていた。  
⇒児童から「もう食べない。」とつぶやきが漏れていたが、コーラやカップ麺など糖分や脂質が抑えられているものがあることを紹介し、後の自己決定の選択肢も示されているところが良かった。
- ・「わたしたちの保健」をもとにした自作ワークシートにより、児童の見方・考え方に関わる点を押さえることができていた。
- ・学級の給食残菜量や学校栄養職員による栄養指導の資料などを掲示することは有効であると感じた。

### ○課題

- ・事前に自分学びができるところと授業で抑えるところを絞っておくことで、要点をしっかりと話し合うことができたのではないか。  
⇒資料等の掲示を行い、客観的な情報を得られるようにする。
- ・ワークシートの空欄に、児童がキーワード札を貼りながら学習を展開してはどうか。  
⇒学級全体もしくはグループで1人1枚キーワードをもつことで、自分の言葉がどこに当てはまるのか、個人またはグループで話し合うことができるのではないか。
- ・養護教諭との連携、県の出す客観的データなどで児童が気付いたり納得したりできる場面を1時間（45分）の中に入れ込みたい。